

平成30年3月30日

東日本旅客鉄道株式会社
執行役員 千葉支社長 西田直人様

栄町地区連絡協議
会長 岡部千恵子

要望書

春色のなごやかな季節、貴社益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
私共は、千葉県印旛郡栄町で活動している38の自治会組織の代表者(区長、町内会長、自治会長)で構成する協議会です。
さて、私共協議会では、去る3月17日に開催した全体会議において、JR安食駅窓口の営業時間が突然短縮されたことについて話し合いました。その結果、下記に掲げるような様々な問題が生じており、多くの住民が安全に対する不安や利便性に対する不満を日々感じながら安食駅を利用しており、近隣市町の利用者と同じ運賃を払いながらどうしてこうした仕打ちを受けるのかという疑問を持っていることが判りました。
このことから、営業時間短縮は安食駅を利用する地域住民にとって極めて重大な問題であることに鑑み、地区連絡協議会は「窓口営業時間の短縮」の撤回を求める要望書を貴社に提出することを全会一致で決議しました。
つきましては、公共交通機関である貴社の行動指針である「私たちは、まごころをこめた サービスを行い、お客さまと地域の皆さまのご期待を実現します」を今こそ実践していただきたく、「安食駅窓口営業時間の短縮」の撤回を強く要望いたします。
併せて、営業時間短縮の対象とする駅を選定する際の貴社の基準を教えてくださいたく、よろしくお願い申し上げます。

記

【安全性の問題】

- ① 線路上に貴重品などを落とした場合は、駅員がいないと、線路に降りて自分で拾う利用者が多くなり危険である。
- ② 身障者等の交通弱者が安食駅を利用する際に、駅構内の移動や電車への乗り降りする際に事故が起きても、迅速かつ適切な救助が受けられない。

【利便性の問題】

- ① 一般の利用者も昼間より早朝の利用が多いが、乗車券の購入ができないため、都度乗車証明書を取り、降車駅で精算手続きをしなければならない。
- ② 夕方に安食駅に降りても乗り越しの精算が出来ないことから、特にスイカの場合は翌朝自動販売機が利用できないため、乗車証明書を取り、降車駅で精算するという手続きをしなければならない。
- ③ 運行上のトラブルがあった際に、タイムリーで十分な情報提供が受けられない。
- ④ 通勤・通学者が一番便利な安食駅の朝夕の時間帯で定期券の購入・更新が出来ない。

栄企 第9号
平成30年4月13日
東日本旅客鉄道株式会社
執行役員 千葉支社長 西田直人様

栄町長 岡田正市

JR安食駅の窓口営業時間短縮に関する要望
春暖の候、貴職におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。JR安食駅の営業窓口時間短縮に対しましては、再考を要望しておりましたが、この要望に対する対応はなされませんでした。
その後、栄町民や町議会の窓口営業短縮に関する強い不満と撤回要望、更には、なぜ短縮理由を示さないのか。また、緊急時などに、どこへ連絡したらいいのか分からない等の多くの意見が寄せられました。
そこで、この度は、栄町民・栄町議会・栄町役場が一体となって下記の事項を訴えますので、貴職におきまして、誠意を持って対応されるよう強くお願いいたします。

記

- 1 窓口営業時間短縮の撤回
- 2 窓口営業時間短縮の撤回までの間、短縮に至った理由の揭示
- 3 駅利用者の安全確保のため、緊急連絡先の揭示



今日は黙って自治会側の意見を見守ろうと思っていた岡田町長、そして6人の議員が一齐に反論を開始。「人の確保が難しい、会社として厳しい。私どもも企業だ」と苦しい返答。「は」の化を進めているのに、駅のシャッターを下ろして使えなくなるのは「の化と逆行していると指摘。

岡田町長も「だから、なぜ安食駅なのか」をお聞きしたい」と聞くが、「側は総合的判断を理解して欲しいと繰り返す。一時間しっかり話し、最後に東西は混雑し、県東は過疎になっていると苦しい胸の内をポツリと漏らした。栄町は過疎になっている地域と」千葉は見ている。そこで自治会側から「東日本の社長のメッセージを紹介。
1 お客さま密着、地域密着
2 事故再発の防止
3 お客さま死傷者ゼロ
4 鉄道業界ナンバーワンの顧客満足度
5 お客様の声に徹底的にこだわる
6 まず意見をいただき、可能な限り改善する。改善が困難な場合は上部機関で改善する。」「千葉は返答できなかった。
しかし「R企画部ではこれ以上返答はできないと知った。時間が来たので、最後はお互いに笑顔でお別れした。
最後に他の駅利用者自治体がこられましたかと聞くと、「こんなに大勢で来られたのは初めてです」。私は、次はもっと多くで来ますねと言って握手。
次は「千葉からの返答を待つて、町長選挙後に取り掛かる。」



町長が要望書を手渡す

地区連絡協議会
岡部千恵子会長、
清水孝純氏、岡本雅道氏
賛同・出席議員
戸田栄子、大野信正
大野徹夫、橋本浩、
野田泰博
(岡本雅道議員は自治会として出席)

栄町見聞録

第173号

平成三十年四月



執筆発行 栄町議会議員
野田泰博
栄町安食台1丁目8番7号
メール yasnodat8760@gmail.com
Tel 0476-95-3665



栄町民の要望を自治会連絡協議会、議会議員、町長が手を携えて、千葉支社に訴えました
栄町連絡協議会の訴えは「JR千葉は時間短縮を11駅で実施。安食駅が一番利用者が多い駅。一日2761人。その次が松尾駅1001人。他の10駅は1日千人以下。隣接の小林駅は1991人。木下駅でも2090人。なぜ安食駅が時間短縮されるのか」と非常に論理的な質問であった。「千葉側は総合的判断と繰り返すだけ。今日は黙って自治会側の意見を見守ろうと思っていた岡田町長、そして6人の議員が一齐に反論を開始。「人の確保が難しい、会社として厳しい。私どもも企業だ」と苦しい返答。「は」の化を進めているのに、駅のシャッターを下ろして使えなくなるのは「の化と逆行していると指摘。

キッズランド完成 4月13日竣工式



このキッズランドの特徴

子育てで起きる色々な問題を解決する手助けをしようと「子育て包括支援センター」という相談窓口を置く。そこには子育ての専門家、保健師の協力を得て、ここに来れば誰かが対処してくれることになる。きっと新米お母さんの力強い味方をしてくれるでしょう。子育てを応援する施設と想ってください。むしろこれから使いやすくするために、気が付いたことを係の方に伝え、ともに使いやすい施設にしていってもらいたい。

色々なチャレンジをしている町

今の日本は高齢者が年々増えていき、どの市町も人口減少に頭を痛めている。高齢者は黙っていても増えていき、高齢者の福祉に自治体は高額な資金を投入している。しかし一方では若い世代を増やしていかなければ、町はバランスが取れなくなり、これまでは10人で一人の高齢者を支えていたが、高齢化が進むと5人で一人、二人で一人、一人で一人の高齢者を見なくてはならなくなる。だからこそ若い世代が一人でも多く栄町で暮らすようにしなければならぬのだ。

栄町は大きなハンデを背負った。

過去の町づくりの失敗が今の財政を圧迫している。故藤江町長、故大野町長、故川崎町長、現岡田町長、藤江さん以外は皆、町が背負った借金で苦しんで来た。これも5万人が住める町にしようとして、先行投資をしたためだ。ふれプラ、役場庁舎、広い道路、水確保のための2年後に完成するだろ

うと言われる八ッ場ダムへの先行投資。ダムができて人口は2万人もしくは2万人を切るぐらいとしかならない。八ッ場ダムの水など必要ない。でも約束の金は毎年払わねばならない。伝説の町長が今の住民を苦しめているのは事実だ。財政問題で苦しんでいるのは、人口予想を誤った人でなく、生きている我々なのだ。我々が20年前30年前の負の遺産を背負っているからなのだ。

しかし負の遺産でもその負を正にする方法はどこかにあると思っ

ふれプラ売却には反対した

川崎町長の頃、川崎さんはふれプラを売ろうとしたことがあった。驚いてどこに売ることか聞くと、何でも通信制の高校が買い手を探しているとのことだった。私はいくら苦しくても町民がふれプラを使って町民の文化活動をしているので、通信制の高校に売ったから、使えなくなる。ようやく町民同士がサークルを作ってきたので、売るのは反対すると伝えた。その後その売の話はなくなったが、あれから10年、今度の町長選で川崎さんが考えていた通信制の高校がどこの誰かがわかった。

民進党の長浜議員秘書から

栄町の町長選では民進党は誰も推薦していない。私の写真を使っている人がいるが厳重に抗議をしたというものであった。選挙は特に初めて選挙をするなら、絶対に選挙違反はしてはいけない。登り旗を持った写真は違反をしているという証の写真だ。そのような写真を掲げたり、応援もしていない国会議員の写真を自分のパンフに掲げるのは良くない所業だ。あま

りにも稚拙な選挙活動には嫌気がさす。今まで一番嫌な選挙になりそう。民進党をバカにしていての方が民進党の国会議員と並んだ方を応援するなんて、節操なんぞありやしない。

今の日本は実に異常

朝から晩まで森友学園、家計学園と安部首相の問題だらけ。その間に北朝鮮、韓国、中国、がアメリカと直交渉をしようとしている。政治的には日本は全く蚊帳の外。北朝鮮による拉致問題など解決しようとする時間もない。安部さんが信用する秘書も記憶がない人ばかり。早く決着つけようにも安部さんが一人で自分が正しいと言い張っているだけ。これだけ粘り強く頑張れることを外交でも頑張るって欲しい。

誰も気にしない「種子法廃止」

昨年種子法廃止される法案が出された。これにより各都道府県はお米の種を守る義務がなくなつた。今までは各地にあった農業試験場は意味を持たなくなる。安部政権が種子法を廃止した理由は農業の流通を根元から変えることにある。農業は研究するのではなく、農業は商社が参入して米を委託して作らせる方式に変えようとしていることだ。その背景には農業の後継者が少なくなってきたこともある。農業改革として企業参入をやりやすくして農業を企業化して行こうと言うものだ。一部化学メーカーが「Fワン」として一代限りの種子を供給し、遺伝子組み替えの虫の付かない楽な農業を目指していくことになるだろう。今日本で日本各地にあった農業試験場も意味のないものになり、コメが商社に牛耳られる時代になる。

あとがき

今から3年前に東京の檜原村というところで私の友人が柏市から移り住んで議員になった。その経緯が面白い。

友人の大祖父が檜原村出身の方で、先祖の檜原村が人口減で、自然も荒廃して来たので何とかしたいと檜原村に住居を構えた。彼は柏市の市議や県議をしていたが、県議落選後、檜原村復興のため村議になり、檜原村の自然を生かした村づくりに挑戦しようという決心。彼は65歳。

一方檜原村では、このままでは無投票になる気配の中、選挙はやらねばならないという人がいた。しかしなんとしても選挙のためにポスターだけ作り、何もしないという。そんな裏事情も知らずに私は柏市から先祖の地へ戻った方を1週間応援しに行った。

山の上まで4輪駆動の軽で登り、時には脱輪したりして、肝を冷やした。演説は山に向かってポリウム全開。何か自然破壊をしているようで気が引けた。まさに猪、猿、熊などに話しているようだった。結局、友人は最下位で当選。ポスターだけで参戦した方は当然落選。

友人は今、村興しで忙しく生きています。東京ドームの2・3個分の広さの山を購入し、そこに観光客のためのツリーハウス村を作りたいことを計画している。昨年私に手伝い要請のメールが入った。今年は木こりをしに檜原村へこいという。

栄町には縁もゆかりもない町にアパートを選挙の4ヶ月前に借りて、町のことをほとんど何も知らずに、選挙に出るのは町民への侮辱。民進党、立憲民主党に打診したようだが、両党とも「栄町に野田さんがいるので、彼が賛成したら考える」と答えたそう。私のところには誰も来ない。(因みに私はどの政党にも所属していない自由人だ。)